

①現状分析・課題抽出・施策立案**(1)地域の医療・介護資源の把握****資料2-2****○令和7年度の状況・実施内容****【歯科医師会】**

- ・訪問歯科対応可能歯科医院 ○かかりつけ患者のみ対応歯科医院 11医院 ○患者問わず対応歯科医院 20医院

【薬剤師会】

- ・在宅医、患者からの希望、ケアマネからの依頼など多方面での在宅依頼に柔軟に対応できているようになってきている。

【介護支援専門員連絡協議会】

- ・各ケアマネジャー、もしくは事業所ごとに医療・介護資源の把握を行っている。特にケースを通じて連携を取ることが多く、その内容は深い。

【介護保険サービス事業者連絡会】

- ・令和7年加入事業所

訪問介護：19 (+1)、訪問入浴：2、訪問看護：16、通所介護：27、福祉用具：9、居宅介護支援：29 (-2)、

施設：20 (-1)、小規模多機能型居宅介護7

【小牧市社会福祉協議会】

- ・地域支え合い推進員が地域活動資源については把握をし、社会資源リストを作成している。

- ・地域のフレイル対策では、支え合い推進員がサロンなどで、歯科医師、リハビリテーション連絡会を連携をとり予防事業に取り組んでいる。

【サポートセンター】

- ・「在宅医療の提供と医療・介護連携に関する実態調査」を実施(愛知県医師会依頼)

・こまきつながるくん連絡帳「医療とケアマネ連携一覧」の歯科医師会更新

・新規開設歯科医院1件情報収集

・訪問診療等実施医療機関 17件

【地域包括ケア推進課】

- ・医療・介護マップの公開、医療とケアマネ一覧の更新。

- ・ハートフルパーキングの運用。

○課題**【歯科医師会】**

- ・訪問歯科対応は歯科医院にとってかなりハードルの高い事である。訪問時間や処置内容などもどの歯科医院も同じように対応出来るわけではない。

【薬剤師会】

- ・各薬局が実施しているが、人員不足や医薬品供給不安定な点などで即時対応が難しい。

- ・薬剤師会としてどの薬局が在宅依頼を何件実施しているかは把握していない。

【介護支援専門員連絡協議会】

- ・事業者ごで情報は把握しているが、社会資源の一覧はない。地域の社会資源の情報を把握したりストなどがあるとよい。

【介護保険サービス事業者連絡会】

- ・今年度に入り退会される事業所が増えている。介護保険サービス事業者連絡会に加入しているメリットを感じられない、そもそも利用者様が小牧にいない（市外に事業所があるため）、活動に人員が割けない、などの理由で退会となるケースが多い。

【小牧市社会福祉協議会】

- ・サロンや市民センターで予防活動を行っており、市民に対して取り組む機会づくりは地域ごで進んでいるが、その効果測定や今後の計画的な活動展開が見えにくい。

【サポートセンター】

- ・こまきつながるくん連絡帳「医療とケアマネ連携一覧」の活用状況の確認と更新について検討が必要。

○令和8年度の取組予定**【歯科医師会】**

- ・かかりつけの患者への対応が出来る歯科医院を増やす事や訪問歯科が対応できない歯科医院では、患者の受診が難しくなった場合は対応出来る歯科医院への紹介を行い、継続した口腔管理を行っていくように進めて行く。

【薬剤師会】

- ・引き続き依頼があったときには柔軟に対応していく。

- ・医薬品供給不安定の打開策は近隣薬局との協力で解決していく。→どうしても在庫がそろわないときには医師に相談を実施する。

【介護保険サービス事業者連絡会】

- ・加入しているメリットを感じられるような組織づくり、介護展や市民講座のあり方の検討を重ねる

【サポートセンター】

- ・医師会と訪問看護ステーションの「医療とケアマネ連携一覧」の更新

- ・在宅医療に関する調査を実施（小牧市役所ホームページ「訪問診療実施医療機関」の更新の為、小牧市に情報提供を行う）

- ・新規開設医療機関・介護施設への挨拶と情報収集を行う。

【地域包括ケア推進課】

- ・医療・介護マップの公開、医療とケアマネ一覧の更新。

- ・ハートフルパーキング登録駐車場の増台。

①現状分析・課題抽出・施策立案

(2)在宅医療・介護連携の課題抽出と対応策の検討

○令和7年度の状況・実施内容

【歯科医師会】

- ・多職種カンファレンスへの参加

【薬剤師会】

- ・多職種カンファレンス、地域ケア会議、サービス担当者会議、入退院時カンファレンスへの参加。

【介護支援専門員連絡協議会】

- ・医療職と介護職の連携体制の構築が必要だが、連携の深度については個々の医療職やケアマネジャー任せになっている。

【介護保険サービス事業者連絡会】

- ・会員個々で判断し多職種連携研修会等に参加している。会員が小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター会議に参加させていただいている。

【社会福祉協議会】

- ・病院と地域との連携とともに、地域内の診療所と介護職の連携はケースごとになっている。
- ・訪問診療に関心を持っている医師は増えているが、未だに無関心の医師もあり、連携が取りにくい状況がみられる。

【地域包括支援センター】

- ・多職種カンファレンス（自立支援）年3回 ・事例検討会（小規模多機能居宅介護の事例）

【サポートセンター】

- ・小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター会議の開催 （奇数月 6回/年）5/8・7/10・9/11・11/13
- ・小牧市医師会在宅医療推進委員会に事務局として参加（3回/年）6/12・10/23
- ・地域包括ケア推進担当管理者会参加（9回）4/3・5/1・6/5・7/3・8/7・9/5・10/2・11/6・12/5
- ・多職種連携カンファレンスプロジェクト参加（2回）10/2・11/27
- ・地域包括支援センター権利擁護部会参加（8回）4/16・5/14・6/18・7/16・8/13・9/17・11/19・12/17

○課題

【歯科医師会】

- ・参加する歯科医師がいつも限定されている。開催される時間帯での参加が難しい場合が多い。

【薬剤師会】

- ・薬局側からの積極的な参加姿勢があまり見られない。受け身になってしまっている。
- ・サービス担当者会議に薬剤師が呼ばれないことあり。

【介護支援専門員連絡協議会】

- ・新しいクリニックや訪問看護ステーションが開所しているが、事例を通じて連携することもあるが、概ねはつながりづくりが進まない。顔の見える関係づくりが必要

【社会福祉協議会】

- ・市内での医療・介護連携の意識づけが部分的になっており、改めてかつての「医師とケアマネの座談会」のように全体的に意識づけしていくことも必要と思われる。

【地域包括支援センター】

- ・介護保険事業所、ケアマネジャーの抱える地域課題に対して、事例検討会や研修会を通じて意見交換はできているが、課題解決を検討していく場が不足している。

【サポートセンター】

- ・抽出された課題についての具体的な解決策の検討。

○令和8年度の取組予定

【歯科医師会】

- ・訪問歯科を行っている歯科医師は最低でも1回は参加して発言する機会を持ち、他職種との顔と顔の見える関係作りを構築していく。

【薬剤師会】

- ・薬局薬剤師が上記のような会議、カンファレンスへも参加することができる旨のアピール

【介護保険サービス事業者連絡会】

- ・今後も研修会や会議等に参加予定

【地域包括支援センター】

- ・多職種カンファレンスへの参加。

【サポートセンター】

- ・小牧市在宅医療・介護連携サポートセンターの定期開催 ・小牧市医師会 在宅医療推進委員会への事務局としての参加
- ・地域包括ケア推進担当管理者会への参加 ・多職種連携カンファレンスプロジェクトの参加（要請あれば）

①現状分析・課題抽出・施策立案

(3)切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進

○令和7年度の状況・実施内容

【歯科医師会】

- ・訪問歯科を主とする歯科医院が令和7年9月に小牧市に開業

【薬剤師会】

- ・医療だけではなく介護に関しての相談窓口として薬局を活用してもらえるようにPRしている。
- ・相談があった場合は包括支援センターへ情報共有実施。

【介護支援専門員連絡協議会】

- ・入退院連携については、市民病院や小牧第一病院と検討中・連携シートも内容を見直すよう動いている。

【介護保険サービス事業者連絡会】

- ・会員個々で判断し多職種連携研修会等に参加している。

【小牧市社会福祉協議会】

- ・入退院連携については、現在検討が進められているが、転院先や入所先の施設への情報伝達、連携体制の構築は滞っている。

【サポートセンター】

- ・小牧市生き活き人生プロジェクトチーム・全体会議は不定期（4回/年）4/8・7/8・10/14・3部会（市民部会・教育部会・医療介護福祉部会）会議は不定期
- ・小牧ごっくんサポート会議は、（偶数月5回/年）・4/17・6/12・8/21・10/9・4グループ（現場・教育・広報・カフェ）会議は不定期
- ・副科訪問支援を行っている。（令和7年度 2件）

【地域包括ケア推進課】

- ・入退院支援ルールの運用

○課題

【歯科医師会】

- ・訪問歯科医院への紹介するという考えを持っている歯科医が少ない為に、適切にアナウンス出来ていない。また気付くと入院して連絡が無いままに在宅・施設で訪問歯科医が決定していることもある。

【薬剤師会】

- ・包括と関係性ある薬局が少ない。

【介護支援専門員連絡協議会】

- ・病院がどのような情報を求めているかを把握し、連携シートの内容を修正することが必要。

【小牧市社会福祉協議会】

- ・転院や施設入所、退所における情報伝達、連携体制構築の仕組み（ルール）が必要。
- ・障害分野や子育て分野などへの仕組みの拡大。
- ・身寄りのない方や生活困窮者への対応。

【サポートセンター】

- ・副科往診可能医療機関の拡充

○令和8年度の取組予定

【歯科医師会】

- ・開業医の先生に日頃から訪問歯科についてのアナウンスを行ってもらい、自院で対応が難しい場合には適切に引き継げる先生に依頼出来るような関係作りを構築する。

【薬剤師会】

- ・薬局外での研修などへ積極的参加を促し、顔の見える関係作りを行っていく。

【介護支援専門員連絡協議会】

- ・医療・介護連携シートの内容の見直し
- ・連携シートを活用した入退院連携の研修の企画実施

【介護保険サービス事業者連絡会】

- ・今後も研修会に参加予定。

【サポートセンター】

- ・小牧市生き活き人生プロジェクトチームでは、ACPの普及啓発の継続
- ・小牧ごっくんサポートでは、各グループの目標に向け活動の継続

②対応策の実施

(4)在宅医療・介護に関する相談支援

○令和7年度の状況・実施内容

【歯科医師会】

小牧市保健センター・在宅医療介護連携サポートセンターでの訪問歯科関係の相談受付と必要に応じて訪問歯科依頼

【薬剤師会】

私生活で問題がある可能性がある人の情報を包括支援センターへ相談などの実施。

【介護支援専門員連絡協議会】

・在宅での医療や介護のことは、ケアマネジヤーや地域包括支援センター、または病院などが相談を受け止めている。・在宅医療・介護連携サポートセンターも相談窓口となっている。

【介護保険サービス事業者連絡会】

・介護展の企画、運営 2025年6月8日（日）小牧市公民館にて スタッフ参加者：93事業所120名

【小牧市社会福祉協議会】

・在宅での医療や介護については、地域包括支援センター・在宅医療・介護連携サポートセンターが相談窓口となっている。

・地域では民生委員や区役員も相談を受けることが想定されるが、地域包括支援センターへつなぐルートができあがっている。

【地域包括支援センター】

・サポートセンターとの連携

・アウトリーチ型の相談体制の充実として出張相談会（南部）小針の郷、スギ薬局、イオン小牧店（小牧）ラビオでわかなる（味岡）田県の郷、大垣共立銀行、岩崎県住移動販売（篠岡）野口の郷、ドン・キホーテUNY桃花台店（北里）小針の郷、藤島団地会館

【サポートセンター】

・相談件数 35件 ・地域包括支援センター出張相談会同行（12回/年）4/15・5/29・6/10・7/22・8/19・9/16・10/14・11/21・12/9

【地域包括ケア推進課】

・相談窓口（小牧市在宅医療・介護連携サポートセンタ）の設置、コーディネーターの配置。

○課題

【歯科医師会】

どの歯科医院へ訪問依頼すれば良いのかが不明瞭であった。

【薬剤師会】

・包括と関係性が作れている薬局が少なく、実施できている店も少ない。

【介護支援専門員連絡協議会】

・医療的な内容の相談は市民から医師への信頼が厚く、医師以外に相談するがなくあまり多くはない。・気軽に相談できる場が必要

【介護保険サービス事業者連絡会】

・ゆっくり相談できる場ではなかった。介護保険制度の理解が難しいため説明に時間がかかる。

【小牧市社会福祉協議会】

・セカンドオピニオンを受ける場合や治療方針に疑問を持った時など、医療的な内容の相談を受ける専門的な窓口が求められている。

【地域包括支援センター】

・サポートセンターとは、十分な連携が図れており、特に課題は見当たらない。

【サポートセンター】

・相談窓口の周知啓発 ・地域資源・近隣の医療資源の情報収集

【地域包括ケア推進課】

・住民・関係者への周知が十分ではない。

○令和8年度の取組予定

【歯科医師会】

・小牧市歯科医師会のHP内容の変更を行い、訪問歯科を中心とする歯科医院をサポートセンターにアナンスを行った。このことによりどのように依頼が変化するのかを確認して、次の対策を検討したい。

【薬剤師会】

・多くの薬局が包括支援センターへの情報共有や相談を実施していくように薬剤師会としても働きかけを行う。

【介護保険サービス事業者連絡会】

・2026年も介護展を実施（2025年から1日で完結させる）内容についてはこれから検討だが、2025年のスタッフアンケート等を踏まえて内容を決定する。

【地域包括支援センター】

・地域の身近な場所で医療や介護について相談ができる、出張相談会を継続して行っていく。

【サポートセンター】

・地域包括支援センター 出張相談会同行の継続 ・相談窓口の周知啓発

【地域包括ケア推進課】

・相談窓口の周知

②対応策の実施**(5)地域住民への普及啓発****○令和7年度の状況・実施内容****【歯科医師会】**

- ・市民講演会への出場 ・小牧市歯科医師会HPでの「口腔機能低下症」対応歯科医院の提示

【薬剤師会】

- ・店舗健康相談会でのPR実施。 ・包括支援センターに依頼し、薬局内でACPについての講習会、わた史ノートの紹介実施。

【介護連絡会】

- ・地域住民に対しては在宅医療・介護の啓発は当会としてはあまり行えていない。

【介護保険サービス事業者連絡会】

- ・市民講座の企画、運営 2025年11月18.19日 野口の郷にて

【リハビリテーション連絡会】

- ・サロン派遣：13回 こまき山体操派遣：14回 こまき山体操のアンケート実施

【小牧市社会福祉協議会】

- ・地域住民に対しては予防事業を通じて健康や運動への取り組みの啓発を行っている。 ・サロンの場を活動の基盤としている。

- ・サービス事業者連絡会では介護保険事業のPRを行った。

【地域包括支援センター】

- ・わた史ノート講話（13か所）

【サポートセンター】

- ・小牧市地域包括支援センター権利擁護推進部会 「わた史ノート講話」同行し、サポートセンター事業啓発とマルチポーチ配布 4/21・5/12・7/17・7/23・7/26・8/26・10/10・11/20

【地域包括ケア推進課】

- ・小牧市在宅医療・介護市民講演会の開催 ・わた史ノートに関する出前講座の実施

○課題**【歯科医師会】**

- ・出場して歯科医師会の宣伝をしているが、ほとんどの会員は興味が無いためにどれだけアナウンスをしても全く頭に残りもしていない。

- ・オーラルフレイルから歯科医院で検査をして口腔機能低下症の診断の下にトレーニングを行うことにより改善出来ることをアナウンスしていく必要性がある。

【薬剤師会】

- ・普及活動を実施している店は少ない状況。

【介護保険サービス事業者連絡会】

- ・対象が60歳以上となっている。（老人福祉センター利用のため）

【リハビリテーション連絡会】

- ・こまき山体操のアンケートをどう考察していくか。

【小牧市社会福祉協議会】

- ・元気な高齢者にとって医療面の啓発は受け入れられやすいものではない様子。

【地域包括支援センター】

- ・わた史ノート講話が多く開催できている圏域とそうでない圏域がある。

【サポートセンター】

- ・市民向け出張講座の検討

【地域包括ケア推進課】

- ・講演会、出前講座の参加者世代の固定化

○令和8年度の取組予定**【歯科医師会】**

- ・現在参加している会員のサポートは行っていく必要はある。 ・サロンでの歯科医師の講義が再開することが決定している、来年度から本格化するので地域の歯科医師に引き受けてもらって進めて行く。

【薬剤師会】

- ・多くの薬局が普及活動を実施していくように薬剤師会としても働きかけを行う。

【介護保険サービス事業者連絡会】

- ・2026年も市民講座を実施 場所や内容について今年度の反省を踏まえて今後検討

【リハビリテーション連絡会】

- ・サロン派遣は、進めていく体操教室だけでなく、フレイルや転倒予防など講義を行っていく

【社会福祉協議会】

- ・サロン事業や地区ごとのこまき山体操活動の継続展開。 ・専門職と連携したフレイル、オーラルフレイル事業の実施。

【地域包括支援センター】

- ・わた史ノート講話をを行い、積極的に機会をとらえて、普及啓発を進める。

【サポートセンター】

- ・「小牧市の在宅医療・介護冊子」の更新 ・市民講演会の開催 ・啓発グッズの配布

【地域包括ケア推進課】

- ・広く市民に普及啓発が行えるよう検討

③対応策の実施（地域の実情を踏まえた柔軟な柔軟な実施）**⑥医療・介護関係者の情報共有の支援****○令和7年度の状況・実施内容****【歯科医師会】**

- ・こまきつながるくん連絡帳への歯科医師の登録者を増やすためにアンケート（小牧市役所地域包括ケア推進課への依頼して内容説明を行った）・「医療とケアマネ一覧」での歯科医師の内容変更・小牧ごくんサポートチームへの会員派遣

【薬剤師会】

- ・在宅訪問後の報告書を作成し、処方医・ケアマネへ共有している。MCSを活用し、患者情報の共有実施。

【小牧第一病院】

- ・医療と介護の連携シートについて 小牧第一病院 連携件数36件

【小牧市民病院】**・「医療と介護の連携シート」による連携**

- 2024年（1月～12月）828件（市内）383件（市外）426件 その他の様式78件 2025年（1月～12月）809件（市内）365件（市外）445件 その他の様式48件
ケアマネから送信される件数は、年々増加しているが院内の周知活用がされていない現状がある。現状は、患者支援センターでスキャン後は、病棟にお渡ししているが、患者さんが退院（転院）時まで使用していない。使用することが周知に繋がるため、

活用の機会を増やす。退院支援計画を立案する多職種カンファレンスの時に活用する事で、多職種への周知に繋がると考えている。

【介護支援専門員連絡協議会】

- ・今年度の総会で「こまきつながるくん電子連絡帳」を活用することを会の重点事業として表明している。

- ・「連絡帳」については、操作の手間、操作者の不理解を要因として活用が進んでいない。・市へ取り扱い説明動画の作成を要望している。

【小牧市社会福祉協議会】

- ・介護事業者・障害福祉サービス事業者についてはメーリングリストを作成しており、在宅医療・介護連携サポートセンターや医療機関から研修案内など情報提供があった場合には事業所へ情報を共有している。

- ・医療機関への情報提供は在宅医療・介護連携サポートセンターに依頼している。

【地域包括支援センター】

- ・訪問診療や訪問看護、薬局と連携し支援体制を構築・入退院支援における「医療と介護の連携シート」の活用・「こまきつながるくん連絡帳」を活用した情報共有・「医療とケアマネの連携一覧」の活用

【サポートセンター】

- ・こまきつながるくん連絡帳3年ごとの更新（医師会・歯科医師会・薬剤師会・訪問看護ステーション）・医療と介護の連携シートについて

【地域包括ケア推進課】

- ・こまきつながるくん連絡帳の運用・小牧市版入退院支援ルールの運用

○課題**【歯科医師会】**

- ・登録しても実際に運用できる先生が少ない（訪問歯科対応していない）

【薬剤師会】

- ・薬局それぞれに任せているので薬剤師会として実施している店舗が不明。

【小牧市民病院】

- ・内容についての問題と、院内の運用や活用に対しての問題があった。以下を課題とする。

- 1) シートの内容について・患者家族の意向やACP的な内容を増やしてもらいたい。現在は特記に記入となるが、スペースが狭いため、内容が少なくなる。シートの見なおしが必要である。

- 2) 運用について・院内周知が不十分であり、十分に活用ができない。院内周知が必要である。

- ・小牧市民病院の電子カルテには、シートがどの患者さんにスキャンされているか、電子カルテ内を検索しなければ把握できない。リスト化には、一手間かかるため多職種も把握しやすい工夫が必要である。

- ・シートの原本がカルテファイルにしまい込まれているため、活用する事が必要である。・入院前に情報を受け、介護施設など情報共有し連携をとることが出来ていない。

【介護支援専門員連絡協議会】

- ・「こまきつながるくん電子連絡帳」のシステム上の改善（簡単なログインの仕方など）・活用に向けた啓発の強化

【小牧市社会福祉協議会】

- ・医療機関の情報と介護機関の情報をもっと共有してもらいたいのではないか。・こまきつながるくん連絡帳の一斉送信機能の活用

【地域包括支援センター】

- ・入院時における「医療と介護の連携シート」について、本人の意向を記入することがルールとして定着できていない。

【サポートセンター】

- ・「医療とケアマネ連携一覧」に掲載されていない医療機関への掲載依頼・事業所に関しての管轄が未定で更新がされていない・こまきつながるくん連絡帳の利用促進において関係機関との利用促進の啓発

【地域包括ケア推進課】

- ・小牧市入退院支援ルールの見直し

○令和8年度の取組予定**【歯科医師会】**

- ・こまきつながるくん連絡帳へアクセスするような情報提供を提示する必要がある。

【薬剤師会】

- ・実施店舗を増やしていく。

【小牧市民病院】

- 1) シートの内容について 内容の見なおしを、小牧市と進めていく。

- 2) 運用について・院内周知については、「患者支援センター通信」の発行を再開して電子カルテ機能を活用し周知していく。・シートがスキャンされている患者さんを把握出来るしくみを作る。

- ・カルテファイルに収納せず、活用する仕組みをつくる。・入院前に情報を受け、介護施設など情報共有し連携をとるしくみをつくる。

【介護支援専門員連絡協議会】

- ・「連絡帳」の活用について会の重点事業として次年度も継続・具体的な啓発活動の取り組み…「連絡帳」を活用した事例検討会などの実施

【社会福祉協議会】

- ・メーリングリストを活用した情報提供の継続・医療機関への福祉・介護情報の情報発信

【地域包括支援センター】

- ・「医療と介護の連携シート」「つながるくん連絡帳」などのツールを活用し、適切に情報共有ができるように取り組んでいく。

【サポートセンター】

- ・「医療とケアマネ連携一覧」について医師会と訪問看護ステーションの更新と閲覧状況の確認

【地域包括ケア推進課】

- ・小牧市版入退院支援ルールの見直し

③対応策の実施（地域の実情を踏まえた柔軟な柔軟な実施）

(フ)医療・介護関係者の研修	
○令和7年度の状況・実施内容	
【歯科医師会】 小牧ようてい記念病院での在宅歯科推進研修会での講義およびグループディスカッション（講師は小牧市歯科医師会より選出）	
【薬剤師会】 ・医療・介護勉強会開催	
【介護支援専門員連絡協議会】 ・R7「利用者と共に人生の最期を考える～意思決定支援～」をテーマに研修会を開催 終末期の医療・介護職の関わり方として自己決定支援を学ぶ予定 ・R5・6年度と急性期～維持期を想定して、訪問看護とケアマネジャーと連携強化をねらいとした合同研修会を開催	
【介護保険サービス事業者連絡会】 ・会員対象の研修会の開催 4月26日 いい法人の「あり方」と「やり方」 8月8日 災害時介護保険サービス事業者は地域から何を求められ、何ができるのか 9月19日 福祉機器説明・体験会 12月9日 「いのちをつなぐ、介護の現場力」	
【リハビリテーション連絡会】 ・リハビリテーション連絡会主催で4回施行	
【小牧市社会福祉協議会】 ・社協としては介護保険サービス事業者連絡会で行っている。	
【地域包括支援センター】 ・虐待防止研修（介護事業所8か所、医療機関1か所） ・認知症サポーター養成講座（介護事業所6か所） ・わた史ノート講話（薬局2か所、小規模多機能ホーム向け市内合同1回）	
【サポートセンター】 ・医療・介護勉強会の実施 3回/年 （対面とオンライン開催）第1回 8/6 パーキンソン病の基礎（参加者 47名）第2回 10/16 パーキンソン病の治療薬について（参加者 27名） ・多職種連携研修会 2回/年（パネルディスカッションとグループワーク）第1回 7/24 本人中心のケアを実現するために（参加者 51名） 第2回 11/25 急性期病院の医療と介護の連携（参加者 37名） ・小牧市生き活き人生プロジェクトチーム 医療介護福祉部会 第1回 10/29 わた史ノートを使ってみよう（参加者 15名）	
【地域包括ケア推進課】 ・多職種連携研修会の実施	
○課題	
【歯科医師会】 ・研修会の後に歯科への訪問依頼が増した訳ではなく、お互いに連携をとれるルール作りが必要である。	
【薬剤師会】 ・講師を依頼できる薬剤師が少ない。	
【介護支援専門員連絡協議会】 ・在宅医療・介護連携の要となる訪問看護とケアマネジャーについて、連携・協働の意識づけに取り組んできたが、他の医療職との連携がなかなか進まない状況がある。 ・特に医師との連携は在宅診療を行っているかどうかで大きな差がある。・歯科や薬科との連携については、ケアマネジャーの理解が十分でなくケアプランに入れていないことが多い。	
【介護保険サービス事業者連絡会】 ・参加者の満足度は高いが参加人数が少ない。	
【リハビリテーション連絡会】 ・参加人数の少なさ ・多職種への呼びかけ	
【地域包括支援センター】 ・わた史ノート講話を事業所向けてする機会がない。	
【サポートセンター】 ・医療・介護勉強会の今後の開催内容・方法について（同テーマの3回シリーズ勉強会を多職種講師を招き3年行ってきた） ・開催通知の検討	
○令和8年度の取組予定	
【歯科医師会】 ・令和8年2月にも研修会が開催されるので、来年度に連携が増せるような会としたい。	
【薬剤師会】 ・医療・介護勉強会開催	
【介護支援専門員連絡協議会】 ・こまきごっくんサポートチームの協力により、口腔ケア、薬剤効果に関する研修を検討している。	
【介護保険サービス事業者連絡会】 ・2026年も複数回の研修を企画予定。 開催日や回数等は今後決定	
【リハビリテーション連絡会】 ・リハビリテーション連絡会主催で勉強会4回/年 ・介護予防事業にかかる研修1回/年	
【地域包括支援センター】 ・開催案内を行い、医療機関、介護事業所へ依頼にあわせて研修や講話をしていく。	
【サポートセンター】 ・医療・介護勉強会の継続 ・多職種連携研修会でのグループワークの継続 小牧市生き活き人生プロジェクトチームにて研修開催と研修教材の発信 小牧ごっくんサポートにて医療介護福祉関係者への研修・YouTube配信	
【地域包括ケア推進課】 ・多職種連携研修会開催の継続	

※在宅医療・介護連携に関する市町村との連携

広域連携の推進	
○令和7年度の状況・実施内容	
【歯科医師会】 ・小牧歯科医師会として独立しており、現時点では他の歯科医師会などの共同活動などは全くないが、同じ愛知県歯科医師会の会員なので今後の流れの中では連携は可能であろうが、他職種よりも同職種の方が壁があるように思われる。	
【介護支援専門員連絡協議会】 ・小牧市は在宅医療・介護連携連携協議会やサポートセンター事業を通じて連携をとり、現在必要な要素を当会の研修や事業活動に組み入れている。 ・また、県の介護支援専門員の連絡組織とも密接に連携をしているため、他地域の情報を常にに入れることができている。	
【春日井保健所】 ・地域の在宅医療サポートセンターが実施している在宅医療介護情報交換会に参加し、情報共有を行った。 ・保健所における在宅医療・介護連携推進支援事業は昨年度で廃止となつたが、尾張北部医療圏市町の実情に応じて、情報交換・意見交換の場の希望確認を行い、今年度は担当者の情報共有を行つた。 ・難病患者の在宅療養支援として、難病対策地域協議会を開催している。地域の支援関係者に対して歯科保健も含めた災害時の対策についてシンポジウム、会議や研修会を広域で開催している。	
【サポートセンター】 ・在宅医療・介護情報交換会 3回/年 (対面開催) 6/2・10/6 尾張北部・西部・中部医療圏 (7箇所) と 保健所 (3箇所) ・広域連携会 3回/年 4/14・8/18・12/8 (オンライン開催 Microsoft Teams) 広域 (尾張北部・中部・東部の8箇所)	
【地域包括ケア推進課】 ・こまきつながるくん連絡帳と他の電子@連絡帳との連携協定。	
○課題	
【歯科医師会】 ・地区の歯科医師会同士で縛張り?のような見えない壁はある。	
【介護支援専門員連絡協議会】 ・小牧市民病院が広域を対象としており、入退院連携などの仕組みを将来的には近隣市町と共有していく必要があると思われる。・まずは小牧市の状況を整備し、近隣との連携を図っていきたい。	
【春日井保健所】 ・今後も地域の状況を把握し、尾張北部医療圏内関係者の実情に応じて、情報交換の場の設定を検討していく必要がある。(予算の都合上、担当者レベルでの場の設定は可能)	
【サポートセンター】 ・広域的な取り組みを要する課題について検討	
○令和8年度の取組予定	
【歯科医師会】 ・国・県主導の流れならば対応可能であるが、市同士ではなかなか進まないと思われる。	
【春日井保健所】 ・地域の状況を把握し、尾張北部医療圏内関係者の実情や希望に応じて、情報交換の場の設定を検討する。	
【サポートセンター】 ・在宅医療・介護情報交換会 3回/年他市町と相談の上、継続 ・広域連携会 3回/年 継続	
【地域包括ケア推進課】 ・こまきつながるくん連絡帳と他の電子@連絡帳との連携協定の継続	